

仙台市野球協会 審判検定試験過去出題問題集

1

＜備置義務の有無＞

投球を打者が打たなかった場合、次の塁へ進塁を試みていない走者は必ず次の投球までに元の塁に触れ直さなければならない。

2

＜ファウルチップの定義＞

ファウルチップはファウルボールではない。

3

＜チップがマスクにあたった後の捕球＞

2ストライクから打者のチップした打球が最初に捕手のマスクに当り跳ね返った打球を地面に落ちる前に捕球すれば打者はアウトである。

4

＜チップがミットにあたった後の捕球＞

打者がチップした打球が最初に捕手のミットに当り捕球できずに跳ね返った打球を地面に落ちる前に捕球すればファウルチップである。

5

ファウルチップ時の走者の扱い

打者がチップした打球を捕手が捕球した場合 盗塁を試みていた走者は元の塁に戻らなければならない。

6

＜スリーフットラインとフェア・ファウル＞

本塁・一塁間のファウルラインとスリーフットラインとで囲まれたゾーンに打球が止まった場合はフェアである。

7

＜フォースプレイの定義＞

無死走者一塁でライトフライ。飛び出していた一塁走者をアウトにするためライトが一塁に送球したプレイはフォースプレイである。

8

＜アピールプレイをどの塁で行うか＞

1死走者一・三塁でスクイズ。投手への小飛球となったが走者は2人ともスタートを切っており、投手がフライを捕球した時には三塁走者は既に本塁を駆け抜けていた。投手は一塁へ送球してダブルプレーでチェンジとなり攻守交替した。この場合 タッチアップしていない三塁走者のホームインは無効なので点は入らない。

9

＜空振り反則打球か＞

右打者が踏み出した左足がバッターボックスから完全に外出している状態で空振りした。この場合 打者はアウトになる。

10

＜スクイズ時の反則打球＞

1死走者三塁でスクイズ。三塁走者はホームインしたが、打者の足が完全にバッターボックスから出ていたことが判明。この場合、三塁走者はアウトとなる。

11

＜塁の占有権＞

1死二 三塁でスクイズを試みたが空振りとなり、三塁走者は三・本間に挟まれた。ランダウンプレイの間に二塁走者が三塁ベース上に来たが、この走者は三塁の占有権を保持しているため、タッチをされればアウトになる。

12

＜塁の占有権と守備妨害＞

1死二 三塁でスクイズを試みたが空振りとなり、三塁走者は三 本間に挟まれた。ランダウンプレイの間に二塁走者が三塁ベース上に来たが、三・本間の走者は守備妨害でアウトになった。この時、三塁ベース上の走者に正規の占有権が生じるため、このままの状態でも試合再開となる。

13

＜一塁への牽制球＞

左投手に限り、一塁へプレートを外さずに牽制球が投げられる。

14

＜一塁への牽制偽投＞

左投手に限り、一塁へプレートを外さない牽制で偽投することが許されている。

15

＜三塁への牽制球＞

右投手・左投手ともに、三塁へプレートを外さずに牽制球が投げられる。

16

＜牽制の可否＞

投手の自由な足(軸足でない方)が投手板の後縁を越えたら、二塁以外への牽制球は投げられない。

17

＜走者のいない塁への牽制球＞

投手がセットポジションで静止している時に二塁走者が三塁に向かってスタートを切った。投手はプレートを外さず 三塁へ送球したが、走者がいない塁へプレートを外さずに送球したのでボークである。

18

＜アピールプレイをどの塁で行うか＞

1死走者二 三塁で左中間に鋭い打球。三塁走者は本塁を駆け抜け 二塁走者も三塁を回ったがセンターがこれを好捕した。この場合 二塁に送球してダブルプレーでチェンジとなれば、三塁走者のホームインは認められない。

19

＜正規の捕球＞

フライを捕球する際、最初に打球に触れたのがグラブか手の場合は、その後お手玉をしたり身体他の部分に触れても地面に落ちる前に捕球すればアウトであるが、最初に打球に触れたのがグラブか手以外の場合は、その後地面に落ちる前に捕球しても正規の捕球とは見なされず アウトにならない。

20

＜リタッチのタイミング＞

1死走者三塁で右中間へのフライ。ライトが追いついたが打球をはじき、タッチアップの態勢にあった三塁走者は捕球したと思いスタートした。その後センターがライトがはじいた打球を地面に落ちる前に捕球した。三塁走者の離塁が早過ぎるため、アピールされればアウトになる。

21

＜サインを見る体勢＞

投手がサインを見るときは、必ずプレートに触れた状態で見なければならない。